

京都府立医科大学医学部医学科アドミッションポリシー（入学者受入方針）

京都府立医科大学は、明治5年(1872年)青蓮院に設立された療病院を起源とする日本最古の医科大学の1つである。長い歴史の中で、国際的視野に立って知を創造するとともに継承・発展させ、新たな課題に立ち向かう使命感を校風の核とし、国内外に質の高い診療・教育・研究成果を還元してきた。

このような歴史と伝統に磨かれ形となったのが本学の理念「世界トップレベルの医学を地域へ」である。高度の専門的な医学的知識・技術の修得はもとより、高い倫理観と幅広い教養を備えつつ地域の医学・医療に取り組み、その成果を地域から世界へ発信できる優秀な人材を育成・輩出し、社会の要請に応えるために次のような学生を求める。

- 1 生命の尊厳を重んじ、医学者・医師の職責を自覚し全うできるための人間愛と高い倫理観を有する人
- 2 「学問の都」京都で自ら医学を学び、他者と連携しながら生涯にわたって研鑽をつみ、地域の医療に最善を尽くす熱い意志と探究心を有する人
- 3 国際的視野に立ってトップレベルの医学・医療を京都から世界へ発信できるための向上心と自ら考え学ぶ力を持った人
- 4 すぐれた医学・医療を地域に展開するために必要な使命感とともに、リーダーシップとコミュニケーション力を有する人

【入学者選抜の方針】

高等学校等で学習する全ての教科が医学科教育の土台になるため、各教科における基礎学力を幅広く評価する。なかでも、数学・理科、および国際公用語となっている英語の基礎学力は必須であり、さらに人との交流が基盤となる医療と医学研究の場では国語力が重要である。

入学試験では、一般選抜と学校推薦型選抜を実施しており、筆記試験によって学力および論理的思考力などを評価し、面接では医学・医療への志や意欲を評価する。